

平成30年度事業実績

1 普及啓発事業（定款第4条第1号）

(1) 人権啓発行事

① 人権啓発行事

ア 人権コンサート2018「世界の名曲 日本の名曲」を開催した。

〈実施内容〉

実施日：平成30年11月8日(木)

会場：浜離宮朝日ホール 音楽ホール

出演：天満敦子（バイオリン）、勝呂真也（ピアノ）

山根基世（朗読）、窪島誠一郎（トークゲスト）

内容：世界人権宣言の国連総会における採択から70年になることを記念し、日本を代表するバイオリニストを迎えてコンサートを開催。あわせて、世界人権宣言の朗読、トークを実施した。

このコンサートを通じて、悲惨な戦争、抑圧された人権という「過去」と世界人権宣言70年を迎えた「いま」を、参加者とともに考える行事とした。

参加者数：514名

イ 人権週間行事として、人権のつどい（講演）「性的マイノリティの人権課題と学校教育における取組みの重要性について」を台東区との共催で開催した。

〈実施内容〉

実施日：平成30年12月18日(火)

会場：台東区立浅草公会堂

講師：日高庸晴（宝塚大学看護学部教授）

内容：性的マイノリティの人権課題と学校教育における取組みの重要性についての講演

参加者数：485名

主催：台東区

ウ 人権啓発行事として、映画「Start Line」の上映と映画監督のトークを開催した。

〈実施内容〉

実施日：平成31年1月29日(火)

会場：中央区立日本橋公会堂 ホール

上映作品：「Start Line」

ろう者として、独自の視点でドキュメンタリー映画を製作してきた今村彩子監督が、自ら被写体となり、自転車で日本を縦断する旅を記録した作品。

障害をただ乗り越えるのではなく、むしろそこから人とのコミュニケーションについて考えることが、新たなスタートラインに立つことだと訴える。

講師：今村彩子（映画監督）

内容：映画上映後、共生社会（障害とコミュニケーション）について考える今村彩子氏によるトークを実施した。

参加者数：217名

後援：東京人権啓発企業連絡会

② 人権啓発映画会

東京都における就職差別解消促進月間(6月)の事業として、映画会とトークを開催した。

<実施内容>

実施日：平成30年6月25日(月)

会場：台東区生涯学習センター ミレニアムホール

上映作品：「“尊重する”から始めよう ～公正採用選考の基本を学ぶ～」

事例を通して、公正な採用選考の基本的な考え方と、その原点である人権尊重について学ぶ作品。

「ケアニン ～あなたでよかった～」

小規模介護施設で働く新人の介護福祉士が、認知症高齢者たちと出会うことで、「なんとなく」始めた介護の仕事に本気で向き合うようになっていくドラマ。

※“ケアニン”とは、介護、看護、医療、リハビリなど、人の「ケア」に関わり、自らの仕事に誇りと愛情、情熱を持って働いている全ての人を指す造語

内容：映画上映後、介護について考える菅原健介氏によるトークを実施した。

参加者数：227名

共催：台東区

後援：東京人権啓発企業連絡会

(2) 協賛行事等

国や東京都等が主催する人権啓発行事に協賛・参加した。

<主な行事内容>

実施日	行事	会場
5月11日(金)	平成30年度憲法週間行事「講演と映画の集い in 清瀬」	清瀬けやきホール
9月8日(土)	第25回「子どもたちからの人権メッセージ発表会」	府中の森芸術劇場 ふるさとホール
10月24日(水)	平成30年度人権啓発セミナー	新宿NSビル
11月18日(日)	平成30年度多摩西人権啓発活動地域ネットワーク協議会事業「講演と音楽のつどい」	昭島市民会館 KOTORI ホール
12月7日(金)	第70回人権週間行事「講演と映画の集い in 足立」	足立区役所庁舎ホール
12月8日(土) ～9日(日)	ヒューマンライツ・フェスタ東京2018	東京国際フォーラム
1月26日(土)	平成30年度多摩東人権啓発活動地域ネットワーク協議会事業「講演と映画の集い」	三鷹市芸術文化センター 一星のホール
2月9日(土)	北朝鮮拉致問題解決を願う都民の集い	なかのZERO 小ホール

(3) マスメディア (ラジオ)

人権問題に関する理解を促進し、その解決を図るため、ラジオの媒体特性を活かし、分かりやすく、定期的かつ継続的な番組を提供した。幅広い層の都民に啓発を行うことを目的として、様々な人権問題をテーマにした取材や、人権啓発イベントの紹介など、リスナーに分かりやすく身近な話題を取り上げた啓発番組を提供した。

番組タイトル：「人権TODAY」(TBSラジオ「蓮見孝之まとめて!土曜日」内)

放送日時：毎週土曜日 午前8時20分頃から5分間

(4) 広告

① ポスターの作製・掲出等

人権啓発ポスターを作製し、人権週間を中心に交通機関へ掲出するとともに、東京都や各区市町村、都内公共施設、学校等に配布・掲出依頼した。

平成28年度から継続して、世界人権宣言の条文をモチーフにしたデザインのポスターを作製している。世界人権宣言は、すべての人間が生まれながらに基本的人権を持っていることを基本に、自由権、参政権、社会権をも保障する現代的で包括的な人権宣言であり、人権に関する基本に立ち返るためにポスターを作製した。

平成29年度からは、より幅広い年代に人権をアピールできるよう、一般の方に向けたデザインと学校向けに特化したデザインの2種類を作製している。

作製枚数：人権週間用 10,460枚（うち、一般配布用7,460枚、学校配布用3,000枚）
通年用 5,000枚（うち、一般配布用2,000枚、学校配布用3,000枚）

掲 出：都内各交通機関（都営地下鉄・JR線・各私鉄等駅構内、鉄道やバス等の車内広告）

配 布 先：東京都、区市町村、ハローワーク、公立図書館、公立小・中学校、都立高等学校・特別支援学校、都内大学・短期大学、関係団体等

② 啓発物品の作製・配布

普及啓発活動の一環として啓発物品を作製し、主催行事及び協賛行事等において配布した。また、人権啓発用として、区市町村にも配布した。

作製物品：シャープペンシル 23,000本ほか2種類

配 布 先：人権啓発イベント参加者、都内区市町村等

2 講演・講座・研修等及び相談事業（定款第4条第2号）

(1) 人権問題都民講座

人権問題に関する一般向けの講座を実施するとともに、各講座に関連するフォローアップ企画を実施した。

〈都民講座実施状況〉

	実施日	実施会場	テーマ	講師	受講者数
第1回	7月14日(土)	人権プラザ セミナー ルーム	東京のイスラム社会	クレイシ・ハールーン	112名
			<p>〈フォローアップ企画〉</p> <p>スライドレクチャー (都内でイスラム文化を知ることができる施設などを紹介)</p>	当センター 専門員	(23名)
<p>東京にある「モスク」や「マスジド」(イスラム教の礼拝堂)は、都内や首都圏で暮らすムスリム(イスラム教徒)の礼拝やコミュニケーションの場となっている。18年前にオープンした豊島区南大塚のマスジド大塚もその一つで、現在は施設として地域の祭りや行事にも参加できるまでに至っているが、これまでには様々な紆余曲折があった。</p> <p>施設の運営に携わるクレイシ・ハールーン氏を講師に招き、周囲の理解や施設の定着に向けての苦労や、東京のイスラム社会の特質、ムスリムにとって現在の東京は暮らしやすい場所なのかについて伺う。東京の「いま」を感じ取り、都市における「共生」の意味について、参加者ととともに考える講座。</p>					
第2回	8月24日(金)	人権プラザ セミナー ルーム	ラップは時代を映しているか？ 現代アメリカの音楽文化と人権	大和田 俊之 (慶應義塾大学)	97名
			<p>〈フォローアップ企画〉</p> <p>ブックトーク「人権を学ぶ人のためのヒップホップ入門」</p>	当センター 専門員	(18名)
<p>ラップミュージックに代表されるヒップホップカルチャーは、国や地域を越えて、世界中の若者に支持されている。ファッションやダンス、アートなどと同様、音楽は政治や社会から常に影響を受けながら変化し続けており、地域と時代に応じた人権のあり方を色濃く反映している。</p> <p>アメリカの音楽文化を専門とする講師が、音楽の持つ時代性や、社会・人権との関わり等について、楽曲とともに解説。ヒップホップを中心とする現代アメリカの音楽シーンを、人権の視点から読み解く講座。</p>					

第3回	9月15日(土)	人権プラザ セミナー ルーム	対談：子育て漫画の描き方 ～私たちが子供から教えても らったこと～ ----- <フォローアップ企画> 子供・子育てこぞってカフェ@人権 プラザ	丸本 チンタ たちばな かおる 山崎 旬 ----- 一般社団法人 みなとこぞって ネットワーク	35名 ----- (12名)
		<p>子育て漫画（育児コミック）は、日本の漫画のジャンルの一つで、出産や育児に関する題材を扱い、妊産婦や乳幼児を育てている母親を主な読者として想定し、1990年代から育児雑誌等に連載され、次第に読者を増やしてきた。最近ではウェブサイト上で無料閲覧できるコミックや、ブログで連載される育児日記形式のものも多く、新たな読者を獲得しながら、プロ・アマを問わない作り手が活躍している。</p> <p>こうした子育て漫画の流行が何を意味しているのか、また、作家自身の子育て経験について語っていただき、その中で大切にしてきたこと、学んだことを参加者と共有しながら、作家と編集者による対談形式で掘り下げて女性活躍や男女共同参画、さらに子供の人権を守る環境とはどのようなものとなっているか考える場とする。</p>			
第4回	12月22日(土)	人権プラザ セミナー ルーム	人間の安全保障と難民問題の いま～移動するヒト・変貌す る世界～ ----- <フォローアップ企画> 難民と語り合うカフェ@人権プラザ	佐藤 安信 (東京大学) ----- チョウチョウソー	81名 ----- (30名)
		<p>社会のグローバル化に伴い、とりわけヒトの移動については、旅行や労働、移民・難民・国内避難民など様々な形態で盛んになっている。</p> <p>世界の難民についても UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の報告では、2017（平成29）年末には2,540万人。国内避難民や庇護申請者を加えると、6,850万人が支援対象者とされている。近年のシリア難民の増加など、難民を取り巻く状況が一層深刻化していることをあらわしている。</p> <p>「人間の安全保障」は、持続可能な平和を構築するための比較的新しい考え方で、人間一人ひとりに着目して安全保障を考えることにより、国家間の安全保障を補完し、命の尊厳や生活を守る有効な概念として期待されている。どのような経緯でこうした考え方が提唱され、現在そこで何が議論されているのか、国際機関で長く法務専門家として活動してきた講師が解説する。</p>			
第5回	2月2日(土)	人権プラザ セミナー ルーム	子どもも大人も楽しめる！ 「みんなで遊べる」おもちゃ のはなし ----- <フォローアップ企画> トークプログラム「身近にある、人 権を考えるおもちゃ」	橋高 春生 磯 忍 ----- 当センター 専門員	52名 ----- (33名)
		<p>「人権をおもちゃから考える」をキーワードに、障害のある方も楽しめるおもちゃの特徴や、高齢者施設でのおもちゃの役割などを紹介・解説する。</p> <p>昨今、おもちゃの種類は実に多様で、子供だけでなく大人向けのおもちゃも多く販売されている。おもちゃは世代を超えて、私たちに楽しさや面白さ、時には癒しを提供してくれるが、実は、他者との関わりやコミュニケーションを学ぶことに、大きな力を発揮する。</p> <p>おもちゃを通して、障害の有無や世代を超えて、「誰もが一緒に」楽しむことの意味について考える場とする。</p>			

第6回	3月2日(土)	東京都立 多摩図書館 セミナー ルーム	異なる身体感覚で世界を「見る」方法とは ～視覚と言語と運動する身体～	伊藤 亜紗 (東京工業大学)	102名
			<フォローアップ企画> ブックトーク (講師の著書の紹介等)	当センター 専門員	(23名)
		<p>目が見えない人は世界をどのように感じ、把握しているのでしょうか。例えば目が見えない人は夢を「見る」のでしょうか。また、視覚がさえぎられた状態で、パラアスリートたちが全力で競技できるのはなぜなのでしょう。こうした素朴な疑問に答えるため、当事者への聞き取り調査等で得られた新たな知見をもとに講師が解説する。</p> <p>技術の進歩や社会の変化に応じて障害についての考え方も変わってきている。異なる身体感覚を持つ人々が世界を把握する方法を共有することは、障害を深く理解するための契機となる。障害者に対する固定化されたイメージを取り除くことが、障害者の人権について考えるための第一歩。</p>			
合 計					479名 (139名)

(2) 人権啓発指導者養成セミナー

① 学校における指導者養成

学校における人権教育・啓発のリーダーを育成するためのセミナーとして、教職員を対象とする講演会を行った。

〈実施内容〉

実施日：平成30年8月2日(木)

会場：東京都人権プラザ セミナールーム

講師：宇佐 照代 ((公財)アイヌ民族文化財団 アイヌ文化活動アドバイザー)

((公財) 東京都人権啓発センター 人権問題体験学習会講師)

講演：「人権教育に携わる人のためのムックリ講座」

アイヌの代表的な楽器ムックリは、口琴(こうきん)と呼ばれる種類の楽器で、薄く裂いた竹板の中央に弁(リード)がついており、弁を振動させ、その響きを口腔内に反響させて演奏する。その調べは自然界の音を模倣したようにも感じられ、また奏でる人によって音の違いがはっきりしていることから、コミュニケーションの手段としても使用されたとされている。

ムックリは子供にも比較的扱いやすい。アイヌ文化の理解に向けて人権教育の場で活用いただける手法とし、人権教育に携わる教員等を対象に、ムックリの鳴らし方を学ぶ講座を開催した。

参加者数：30名

② 企業等における指導者養成

企業等における人権教育・啓発のリーダーを育成するためのセミナーとして、講演会を行った。

〈実施内容〉

実施日：平成31年1月24日(木)

会場：主婦会館プラザエフ クララルテ

講師：ロッシェル・カップ (Rochelle Kopp ジャパン・インターカルチュラル・コンサルティング 社長)

講演：「欧米のセクハラ研修を知る 日米比較・職場のハラスメント対策」

職場におけるハラスメント防止に対する認識を一層高めていくため、人事管理と異文化理解を専門とする経営コンサルタントのロッシェル・カップ氏に(1)日本の企業文化特有の問題点、(2)欧米(主にアメリカ)と比較した際の日本のハラスメント対策の水準と課題、(3)ハラスメント根絶のために企業が取り組むべきことなどをテーマとし、企業や各種団体等の人権研修担当者が、自らの組織における従来のハラスメント対策をグローバルな視点から多角的に再考し、今後、より効果的な取組を実施するためのヒントを得る機会とするために、開催した。

参加者数：91名

(3) 人権研修講師の出講

同和問題をはじめとする人権に関しての正しい理解と認識を深めるために、企業等が実施する研修に対し、講師出講を行った。

研修テーマは人権全般に関するものや個人権課題に関するものなど、研修の申込みをする団体の要望に合わせたオーダーメイドで実施している。

1時間当たりの料金：1時間以内：17,000円、1時間を超える：15,000円(税別)

委嘱講師数：10名

出講団体数：166団体

<出講状況>

出講先団体別区分	団体数	構成比	出講回数	構成比	受講者数	構成比
民間企業	58	34.94%	90	25.07%	4,555	15.68%
官公庁	63	37.95%	167	46.52%	16,478	56.72%
その他の団体	45	27.11%	102	28.41%	8,020	27.60%
合計	166	100%	359	100%	29,053	100%

(4) 研修企画受託

① 特別区講師養成研修

特別区から人権問題に関する研修企画・実施業務を受託した。

研修名：講師養成研修「人権・同和問題Ⅱ」

対象：特別区職員（一般職及び管理職）

内容：人権の基礎的知識の習得、フィールドワーク、講義実習

実施期間：平成30年5月9日(水)～6月5日(火)（各全日実施）

1日目（5/9）「フィールドワークによる人権問題の理解」

「現代の人権侵害・東京の同和問題」

「江戸・東京の部落の歴史と浅草弾左衛門」

（浅草周辺のフィールドワークを含む）

2日目（5/18）国立ハンセン病資料館・多磨全生園フィールドワーク

3日目（5/24）東墨田地区フィールドワーク

「東京における皮革産業の現状」

「東京の同和問題と皮革産業」

4日目（5/31、6/1）東京都中央卸売市場食肉市場フィールドワーク

5日目（6/5）ワークショップ「フィールドワーク研修を企画する」

「人権研修の取り組みの意味と求められる講師スキル」

参加者数：延べ178名

② 港区人権連続講座

港区から人権連続講座に関する企画・実施業務を受託した。

研修名：人権連続講座みなと2018

対象：港区在住・在勤・在学者、企業の人権担当者等

内容：フィールドワーク、講演、映画会・施設見学、体験講座

実施期間：平成30年10月2日(火)～11月19日(月)

1日目（10/2）「人権の森」でハンセン病を学ぶ ～国立療養所多磨全生園へ行ってみよう～

（全日）

山内きみ江氏（ハンセン病回復者）の講演、

国立ハンセン病資料館、国立療養所多磨全生園、花さき保育園見学

2日目（10/17）「自分らしく生きる」を支える ～暮らしの保健室とマギーズ東京～

秋山正子氏（（特非）マギーズ東京共同代表理事）の講演

3日目（10/31）お肉はどこからやってくる？

（全日）

～映画「ある精肉店のはなし」上映とお肉の情報館見学～

4日目（11/10）Let's enjoy! みんなのスポーツ～アダプテッドスポーツって何だろう？～

5日目（11/19）差別を禁止する法律はなぜ必要なのか

木村草太氏（首都大学東京教授）の講演

参加者数：延べ198名

(5) 人権問題体験学習会の実施

小・中学校を対象として、様々な人権問題に関する体験学習会を実施した。学校における人権教育に関する支援事業として、体験的要素を含む学習会（ワークショップ等）及び交流的要素を含む学習会（講演等）を実施した。実施に当たっては、センターから研修プログラムを都内小中学校に配布し、学校からの申込みに基づいて各学校の担当者とセンターの担当者として具体的な研修内容を検討の上、実施の可否を決定し、学習会をコーディネートした。
実施回数：28回

〈実施状況〉

	学校名（会場）	実施日	実施内容	参加者数
1	葛飾区立亀青小学校	5月12日(土)	聴導犬ふれあい授業	154
2	墨田区立第四吾嬬小学校	6月9日(土)	聴導犬ふれあい講演会	331
3	江戸川区立鹿骨東小学校	6月16日(土)	聴導犬ふれあい講演会	650
4	江戸川区立中小岩小学校	6月17日(日)	藤井輝明氏(医学博士)によるふれあい講演会	490
5	八丈町立三原中学校	6月23日(土)	車椅子バスケットボール講演会	126
6	江東区立水神小学校	6月23日(土)	アイヌ文化体験学習会	341
7	八王子市立川口中学校	6月25日(月)	聴導犬ふれあい講演会	360
8	台東区立柏葉中学校	7月7日(土)	聴導犬ふれあい講演会	472
9	八王子市立甲ノ原中学校	7月14日(土)	藤井輝明氏(医学博士)によるふれあい講演会	240
10	台東区立石浜小学校	9月5日(水)	聴導犬ふれあい授業	30
11	北区立滝野川第四小学校	10月4日(木)	視覚障害者とともに学ぶ	50
12	港区立赤羽小学校	10月5日(金)	ゴールボール体験学習会	143
13	西東京市立田無第二中学校	10月10日(水)	聴導犬ふれあい講演会	410
14	練馬区立谷原小学校	10月16日(火)	聴導犬ふれあい授業	123
15	港区立東町小学校	10月18日(木)	LGBT学習会	123
16	葛飾区立梅田小学校	10月18日(木)	ボッチャ体験学習会	93
17	台東区立浅草小学校	10月20日(土)	聴導犬ふれあい授業	92
18	東村山市立萩山小学校	10月24日(水)	多文化共生体験学習会	58
19	板橋区立富士見台小学校	10月27日(土)	バリアフリー/ユニバーサルデザイン体験学習会	102

20	文京区立明化小学校	11月2日(金)	多文化共生体験学習会	60
21	港区立赤羽小学校	11月13日(火)	ボッチャ体験学習会	161
22	中野区立桃園第二小学校	12月5日(水)	ブラインドサッカー体験学習会	62
23	東久留米市立第一小学校	12月7日(金)	ゴールボール体験学習会	91
24	北区立柳田小学校	12月15日(土)	聴導犬ふれあい授業	50
25	目黒区立第八中学校	12月20日(木)	LGBT学習会	85
26	都立蔵前工業高等学校	12月21日(金)	ボッチャ体験・講演会	534
27	練馬区立大泉学園小学校	1月30日(水)	車椅子バスケットボール体験学習会	63
28	江戸川区立小松川第三中学校	3月13日(水)	バリアフリー／ユニバーサルデザイン学習会	67
合 計				5,561名

(6) 子供人権教室の実施

子供（学齢前から小学生、中学生の年代を想定）を対象に、人権課題に触れるワークショップ形式の講座を2回行った。

① 第1回

<実施内容>

実施日：第1回 平成30年8月9日(木)

第2回 平成30年8月10日(金)

会場：東京都人権プラザ セミナールーム

講師：鈴木 紀美代（工房「ムックリの鈴木」代表）

宇佐 照代（（公財）アイヌ民族文化財団 アイヌ文化活動アドバイザー）

（（公財）東京都人権啓発センター 人権問題体験学習会講師）

テーマ：「作ろう！鳴らそう！アイヌの楽器 ムックリ教室」

内容：夏休みに保護者等と一緒に体験できるイベントとして、ムックリを作って鳴らす教室を開催し、アイヌ文化に触れることを通じて、文化の多様性について学ぶ講座。

具体的には、アイヌの代表的な楽器ムックリは口琴（こうきん）と呼ばれる種類の楽器で、薄く裂いた竹板の中央に弁（リード）がついていて、演奏するときは弁を振動させ、その響きを口腔内に反響させる。構造はシンプルで、竹板を削り、厚みとフォルムを整え、弁（リード）の部分に持ち紐を装着すれば完成。製作者自身のオリジナルの楽器として演奏することができる。

参加者数：第1回：36名 第2回：38名

② 第2回

<実施内容>

実施日：平成31年2月2日(土)

会場：東京都人権プラザ ロビーギャラリー

講師：橘高 春生（（特非）芸術と遊び創造協会 施設運営部部长）

磯 忍（同 人材育成部／高齢者アクティビティ開発センター 主任研究員）

テーマ：「みんなで遊ぼう！おもちゃからじんけんを考える」

内容：2017年10月から東京都人権プラザで展示していたクローズアップ人権「おもちゃに見る、じんけんの世界」で紹介したおもちゃを体験する講座。

おもちゃには人権に対する配慮や工夫があり、人権を考える契機となるため、各自が自由におもちゃを使って遊んだ後、各おもちゃについての解説・説明を行い、さらに説明を踏まえて、他の参加者と一緒におもちゃを再体験・交流した。

参加者数：45名

(7) 人権学習会の実施

人権プラザを見学する団体（学校・企業・自治体等）の依頼に応じて、当センター専門員が講師となり、学校の児童・生徒や教職員をはじめ、行政職員、人権擁護委員等に対し、展示の解説や人権問題をテーマにした講義、ポッチャなど障害者スポーツの体験、浅草周辺地域のフィールドワーク等を実施した。また、修学旅行や総合学習の受入れも行っている。

対応団体数：126 団体

<利用団体の内訳>

利用団体	団体数 (延べ数)	団体数 (実数)	備考
民間企業	8	8	
官公庁（教育委員会を含む）	64	52	
学校	41	37	
小学校	11	9	児童対象6、教職員対象5
中学校	22	21	生徒対象21、教職員対象1
高等学校	4	3	生徒対象3、教職員対象2 （1校は生徒及び教職員を対象に実施）
中学校・高等学校	1	1	生徒対象1
大学	3	3	学生対象3
その他	13	13	人権擁護委員等
計	126	110	

<参加者の内訳>

参加者	参加者数	割合
一般	171	3.6%
一般・行政職員（内訳不明）	53	1.1%
行政職員	690	14.7%
教職員	1,225	26.0%
児童・生徒（引率者を含む）	2,208	46.9%
小学生	429	9.1%
中学生	1,111	23.6%
中学生・高校生（内訳不明）	33	0.7%
高校生	635	13.5%
大学生	84	1.8%
人権擁護委員等	124	2.6%
その他	149	3.2%
計	4,704	100.0%

(8) 人権に関する相談

当センターの人権相談員が相談に応じる「一般相談」と弁護士が相談に応じる「法律相談」及び「インターネットにおける人権侵害」に関する法律相談を実施した。

一般相談件数：1,188件 法律相談件数：81件 インターネット法律相談：11件
合計：1,280件

① 相談内容内訳

(一般相談)

月曜日から金曜日の午前9時30分から午後5時30分を実施

人権課題別	件数
1 女性	23
2 子供	20
3 高齢者	22
4 障害者	87
5 同和問題	7
6 アイヌの人々	0
7 外国人	13
8 HIV感染者等	1
9 犯罪被害者やその家族	2
10 インターネットによる人権侵害	32
11 北朝鮮による拉致問題	1
12 災害に伴う人権問題	0
13 ハラスメント	52
14 性自認	5
15 性的指向	4
16 路上生活者	0
17 その他の人権	127
小計	396
21 行政一般	44
22 生活一般	415
50 その他(どの区分にも属さない)	333
小計	792
合計	1,188

相談経路別	件数
電話	1,063
Eメール	38
文書	12
面接	75
その他	0
合計	1,188

(法律相談)

火曜日の午後1時から午後4時に実施

内容分類	件数
A 土地・建物	3
B 債権・債務	2
C 親族・家族	11
D 相隣・環境	4
E 損害賠償	4
F 訴訟手続	10
G 相続・贈与	6
H 労働問題	6
I プライバシー・名誉権	1
J その他	34
合計	81

相談経路別	件数
電話	45
面接	36
その他	0
合計	81

<夜間人権ホットライン>

法律相談の中で、人権週間における取組として、弁護士が相談に応じる「特別法律相談」を実施した。

実施日時： 平成30年12月6日(木) 午後5時～午後8時

内 容： 法律に関連する相談

受付方法： 電話

相談件数： 25件

(「インターネットにおける人権侵害」に関する法律相談)

木曜日の午後1時から午後4時に実施

※本相談は平成30年10月から開始した。

内容分類	件数	相談経路別	件数
A名誉毀損・信用毀損	5	面接	11
Bプライバシー侵害(住所・電話番号・メールアドレス等流出)	2	その他	0
Cプライバシー侵害(写真・映像などの肖像権侵害)	3	合 計	11
Dプライバシー侵害(過去の犯罪事実流出)	1		
Eプライバシー侵害(その他)	0		
F著作権侵害	0		
Gその他の権利侵害	0		
Hその他	0		
合 計	11		

② 相談経路別内訳(全人権相談計)

相談経路別	件数
電話	1,108
Eメール	38
文書	12
面接	122
その他	0
合 計	1,280

3 情報収集・提供、調査研究等の事業（定款第4条第3号）

(1) 図書資料の閲覧、貸出

人権問題に関する図書資料及び視聴覚教材等を収集し、閲覧・貸出を行った。

蔵書数：13,785冊 うち平成30年度の図書収集数：1,104冊

利用者数：1,331名

貸出冊数：1,495冊

(2) 視聴覚教材等の貸出

地域や人権関係団体、企業の研修会等の利用に供するため、視聴覚教材等の貸出を行った。

保有数：VHS・DVD 792本 うち平成30年度収集数：39本

貸出本数：VHS・DVD 413本

(3) インターネットホームページによる情報の発信

当センター及び東京都人権プラザのインターネットホームページにより、それぞれの活動目的や事業内容、人権関係情報等を提供した。

① 当センターホームページ

アクセス利用件数：875,536件

アクセス回数：918,736件

② 東京都人権プラザホームページ

アクセス利用件数：197,546件

アクセス回数：217,983件

(4) 図書資料室関連事業

図書資料室の利用促進及び利用者層の拡大のため、図書資料を活用した様々な事業3回、実施した。

① 第1回

〈実施内容〉

実施日：平成30年9月29日(土)

会場：東京都人権プラザ セミナールーム

講師：どいかや（絵本作家）

平田幸（レラの会会長、（公財）人権教育啓発推進センター相談員）

テーマ：「絵本『ひまなこなべ』とアイヌの昔話（ウエペケレ）～イオマンテをめぐるって」

内容：アイヌ伝承者によるアイヌ文化（踊り、儀式・イオマンテなど）の解説を聞き、アイヌの踊りを体験したのち、アイヌの昔話を題材にした絵本「ひまなこなべ」の作者である絵本作家が、アイヌを取材した時のお話やアイヌの伝統文化について語った。最後に絵本の挿絵の塗り絵を行った。

参加者数：63名

② 第2回

〈実施内容〉

実施日：平成30年11月17日(土)

会場：東京都人権プラザ セミナールーム

講師：岡野裕行（皇學館大学文学部国文学科准教授）

角谷舞子（ビブリオバトル普及委員会普及委員）

テーマ：「小さな専門ライブラリーへようこそ～人権の専門図書室の楽しみ方」

内容：人権プラザ図書資料室の周知と利用促進を図るため、図書館周辺の活動や情報

資源の活用に詳しい講師が、先進的な全国の様々な取組例や、図書資料室をより良く活用し、魅力を高めるための講義を行った。

次に読書の新しい楽しみ方を体験するビブリオバトルを、講師2名とセンター職員3名が登壇して発表し、参加者が投票を行い、チャンピオンを決定した。

参加者数：39名

③ 第3回

〈実施内容〉

実施日：平成31年2月23日(土)

会場：東京都人権プラザ セミナールーム

講師：温又柔(作家)

テーマ：「旅・人・言葉を語る～『日本語圏文学』からみる多文化共生～」

内容：日本で活躍する外国人作家・温又柔氏が、日本社会に溶け込む手段として言語(日本語)の獲得が重要であり、日本語の難しさや、移住外国人の直面する言葉の問題、外国にルーツを持ち「日本語」を学ぶことができずにいる子供たちや、外国人の子供たちへの教育(学校教育、日本語教育)の必要性について語った。また、自身の著書を通して、アジア圏の言語・文学にも触れながら、在住外国人の抱える様々な人権問題や多文化共生社会について考えた。

講演ののちに自作の外国人労働者、国際結婚、外国人の子供の問題、多文化共生など、人権問題に関わるエピソードが多く含まれている作品の朗読を行った。

参加者数：97名

4 出版物等の発行事業（定款第4条第4号）

(1) 人権情報誌「TOKYO人権」の発行

人権に関する様々な問題を取り上げるとともに、当センターの活動状況、人権プラザの紹介、東京都・区市町村のイベント情報などを掲載し、人権に関する情報を広く都民に提供した。

発行回数：4回

発行部数：各17,500部

配布先：東京都、都内区市町村、道府県、ハローワーク、公立図書館、男女平等参画センター、保健所、企業・関係団体、都内公立小・中学校、都立高等学校・特別支援学校、都内私立学校、都営地下鉄駅等

〈発行内容〉

号数・発行月	テーマ・内容
<p>第78号 平成30年5月</p>	<p>インタビュー：成宮アイコ（朗読詩人）「誰もが『生きたい』と思う同じ人間－『生きづらさ』を叫んで人と人をつなぐ」 幼い頃から家庭で暴力を受け、いじめ、不登校、リストカットを経験してきた成宮さんは、高校時代から生きづらさを言葉で表現する展示会や朗読会を行ってきた。その中で人とつながることの大切さに気づき、誰もが少なからず生きづらさを抱えていると知る。成宮さんが活動を通して伝えたいことを聞いた。</p> <p>特集：「女性アスリートが健やかに活躍する社会に向けて」（人権とスポーツ2020） 近年、女性アスリートの活躍が注目されているが、過度なトレーニングや体重制限により健康を損なう選手が多く、競技レベルを問わず支援の充実と指導者への啓発が求められている。女性の健康に生きる権利とスポーツをする権利、双方を守るための取組みについて取材した。</p> <p>コラム：「バービー（Barbie）に見る『美の多様性』－美しさに基準を設ける時代はもう古い！」 1959年に米国でデビューしたバービー人形は、多様なヘアスタイル、目の色、肌のトーンなどを展開してきたが、2016年には体型も多様化し、トール（長身）、カービー（曲線美）、プチ（小柄）の3種類が追加された。“美しさの多様性”を認める時代になった今、ありのままの美しさを発見してみませんか？と問いかけた。</p>
<p>第79号 平成30年10月</p>	<p>インタビュー：田亀源五郎（漫画家）「『正しさ』より『誠実さ』で向き合う－他人の幸せを尊重できる自分に」 ゲイをテーマにしたマンガやイラストを数多く発表する田亀さんの作品は、海外で翻訳出版され、個展も開催されるなど高く評価されている。自身もゲイである田亀さんに、当事者の一人としてLGBTに関する最近の状況や動きについての考えを聞いた。</p> <p>特集：「スポーツの力でLGBTに理解のある社会へ－東京2020大会を差別解消の好機に」（人権とスポーツ2020） 東京2020大会のコンセプトの一つに「多様性と調和」が掲げられるなど、同大会は差別解消の大きな契機になると期待されている。LGBT支援の大きな力となるスポーツの可能性について、（特非）</p>

	<p>虹色ダイバーシティ代表の村木真紀さんに聞いた。</p> <p>コラム：「DV被害者に寄り添う『女性の家 HELP』－シェルターの利用に国籍は問わない」</p> <p>シェルターとは、DV被害者等を一時的に保護し、自立援助を行う緊急一時保護施設。東京を拠点に、国籍や在留資格の有無を問わず多くの女性をシェルターに受け入れ、支えてきた「女性の家HELP」の皆さんに話を聞いた。</p>
<p>第 80 号 平成 30 年 12 月</p>	<p>インタビュー：広瀬浩二郎（文化人類学者）「『目に見えない世界』の魅力を伝えたい－全盲の文化人類学者が世界を『さわる』」</p> <p>全国の博物館や美術館で「さわる」ことをテーマにした展覧会をプロデュースする広瀬さんは、視覚障害者に美術作品の鑑賞を楽しんでもらうと同時に、目が見える人にも「さわる」ことを通して新しい発見や感動を提供することを目指している。全盲の広瀬さんがどのように生き、文化人類学者としてどのようなことに取り組んでいるのか聞いた。</p> <p>特集：「2018年12月10日 採択から70周年を迎えた世界人権宣言－起草に重要な役割を果たした女性たち」</p> <p>世界人権宣言を起草した国際連合人権委員会には、複数の女性がいた。その中から、アメリカ合衆国第32代大統領の妻であるエレノア・ルーズベルトと、インドの人権活動家であるハンサ・メータの2人の果たした役割に注目し、今日における世界人権宣言の意義と役割について考える。</p> <p>コラム：「今年もアートがやってきた！－児童・生徒の美術展に行こう」</p> <p>東京都が都内の特別支援学校に通う児童・生徒たちの美術作品を展示する「アートプロジェクト展」とそれを都内各地で巡回する「アートキャラバン展」。東京藝術大学の協力や監修もあり、本格的な美術展として好評を博している。どのような魅力があるのか取材した。</p>
<p>第 81 号 平成 31 年 3 月</p>	<p>インタビュー：赤石千衣子（(特非) しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事長）</p> <p>「今、ひとり親家庭に必要な支援を問う－当事者の声を響かせつつ広げるには」</p> <p>ひとり親家庭の貧困が深刻化し、大きな社会問題にもなっている。自身も非婚シングルマザーの赤石さんは、日本社会におけるひとり親家庭の生きづらさと30年以上、向き合ってきた。「ひとり親家庭の貧困状態を改善するには、差別や格差など日本社会の構造的な問題も考えなければいけない」と話す赤石さんに、ひとり親が子供と一緒にいきいきと暮らしていくために必要な支援の在り方について聞いた。</p> <p>特集：「『ハーフ』と呼ばれる人々－『日本人』と『外国人』のはざまを生きる」</p> <p>一般的に父母のどちらかが外国人の場合、その子供は「ハーフ」と呼ばれている。近年は「ハーフ」のスポーツ選手やタレントの活躍もあり、憧れの対象として見られる場面が増えたが、日本生まれ、日本育ちであっても外見から外国人と見なされ、日常生活の中で差別や偏見を受けることがある。こうした不利益を被る経験をなくするにはどうすればよいか、自身も「ハーフ」の母親を持つ社会学者の下地ローレンス吉孝さんに話を聞いた。</p> <p>コラム：「多様性に出会える『さんやカフェ』－山谷地域の昔と今がわかる</p>

	<p>場所」</p> <p>台東区と荒川区にまたがる通称「山谷」地域は、かつて「ドヤ街」（日雇い労働者向けの簡易宿泊所が集まる地域）として栄えた場所。近年は、仕事の減少、労働者の高齢化に伴い、街の様子も変わりつつある。そんな山谷に2018年3月にオープンした「さんやカフェ」を訪ね、運営している（一社）結（YUI）の代表理事、義平真心さんに話を聞いた。</p>
--	--

5 人権啓発関係施設の管理運営等（定款第4条6号）

(1) 東京都人権プラザの管理運営

東京都人権プラザの管理運営に関する業務を実施した。

① 東京都人権プラザ年間入場者数

13,856名

② セミナールーム利用実績

件数	132
時間	275
人数	4,280

(2) 東京都人権プラザ展示室の運営

東京都人権プラザ展示室の運営及び企画展開催業務を受託し、実施した。

年間入場者数：8,245名

〈企画展等実施状況〉

	実施期間	実施会場	展示名称 付帯事業名称（受講者数）
人権プラザ企画展 （第Ⅰ期）	4月25日（水）から 7月21日（土）まで	人権プラザ 企画展示室	名越啓介写真展「Familia 保見団地」
	<p>「ダイバーシティ」をテーマに、人権を身近に捉え・考えるための写真展。愛知県豊田市にある「保見団地」は、住民の半数近く約3,000人が日系ブラジル人であるなど、外国にルーツを持つ人々が暮らす多国籍な公営団地。この「保見団地」において、写真家・名越啓介氏が住民と生活を共にし、3年間にわたりその日常を撮影した作品を展示。</p> <p>一言で「ダイバーシティ」といっても、そこには様々な価値や意義がある。本展を通して、多様な人々が共に生きる際に生じる葛藤や困難さ、そしてそれら乗り越えるためのヒントなどを感じて、どうしたら「ダイバーシティ」が実現した社会となるのかについて考える機会とした。</p>		
付帯事業	①5月26日（土） ②6月16日（土）	人権プラザ セミナールーム	①トークセッション（33名） ②スライドトーク（67名）
人権プラザ企画展 （第Ⅱ期）	8月25日（土）から 11月17日（土）まで	人権プラザ 企画展示室	ミリキタニの猫 路上の画家がのこした世界 ジミー・ツトム・ミリキタニ展
	<p>日系2世としてアメリカに生まれ、広島で育ち、戦時中はツールレイクの日系人強制収容所で暮らしたジミー・ツトム・ミリキタニは、1980年代の後半からニューヨークの路上で絵を描きながら暮らしていた。</p> <p>米国市民権を失った彼が路上で何を感じ、何を思いながら絵を描いていたのか。2006年に公開されたドキュメンタリー映画「ミリキタニの猫」では、過去と向き合いながらアイデンティティを回復していく一人の魅力的な人物として描かれていた。</p> <p>そのジミー・ツトム・ミリキタニが晩年に描いた作品約40点を、彼の「人生」の記録や、彼に関わった人たちの証言とともに展示。戦時中に強制収容されてから、テロリズムを背景にした「不寛容」な時代の到来までの間に、猫をはじめとする限定的なモチーフを繰り返し描き続けた意味とは何かについて考える機会とした。</p>		

付帯事業	①8月4日(土)から 8月24日(金)まで ②8月4日(土) ③8月25日(土) ④9月22日(土)	人権プラザ セミナールーム ほか	①プレ展示(絵画作品3点) ②映画上映会「ミリキタニの猫《特別編》」(20名) ③映画上映会「ミリキタニの猫《特別編》」(45名) ④映画上映とトーク(133名)
人権プラザメッセージ展	8月25日(土)から 9月1日(土)まで	人権プラザ ポレキヤラー	「心と体を傷つけられて亡くなった天国の子供たちのメッセージ」展 夏休み明けで新学期が始まる9月1日は最も子供の自殺が多い特異日となっており、文部科学省や各教育委員会などでも注意喚起を行い、その防止に努めている。神奈川県公共図書館が、Twitterを通じて「学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、図書館へいらっしやい」と呼びかけたことは、記憶に新しい。この時期にあわせて児童・生徒も利用する施設である東京都人権プラザも、命の存在を再認識し、その大切さを訴える展示企画を、(特非)ジェントルハートプロジェクトの協力を得て開催した。来場された方に、心の傷が孤独感を生み、人を死へと追い詰めてしまう事実があることを実感し、心と命について考えていただく機会とした。
付帯事業	①8月25日(土)午前 ②8月25日(土)午後 ③9月1日(土)	人権プラザ セミナールーム ほか	①トークプログラム(10名) ②トークプログラム(15名) ③トークプログラム(37名)
クローズアップ人権コーナー 展示更新	10月6日(土)から 令和元年9月末 (予定)まで	人権プラザ 展示室	世界人権宣言を読もう！ —採択から70年 多くの尊い生命を奪い、悲劇と破壊をもたらした二つの世界大戦への反省から、世界の人々の間に平和と人権の尊重を求める動きが高まり、昭和23(1948)年12月10日、国際連合は、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等である」とする世界人権宣言(Universal Declaration of Human Rights)を採択した。 採択から70年の節目を迎えるにあたり、クローズアップ人権コーナーで、前文と30条から成る世界人権宣言全文を展示。各条文を読み、「人権とは何か」という問いに向かい合っていただく展示とした。
人権プラザ企画展 (第Ⅲ期)	1月19日(土)から 3月30日(土)まで	人権プラザ 企画展示室	齋藤陽道写真展「感動、」 ろう者の写真家・齋藤陽道は、幼少期、補聴器をつけても会話が困難なため、人との関わりを持たずに深い孤独を抱えた。その齋藤を救ったのは、ろう学校で出会った手話と写真だった。 2011年に刊行された写真集『感動』に収められた全作品を一堂に展示。社会的マイノリティとされる人々をはじめ、撮影者が自身を取り巻く様々な人や物と向き合い撮影した作品を通して、自分とは異なることを受け止めて、多様な人々と共に生きる世界のあり方を考えて、聞こえなくても伝わる「何か」、写真を通して出す声を感じていただく機会とした。
付帯事業	①1月30日(水) ②2月8日(金) ③3月9日(土) ④3月23日(土)	人権プラザ セミナールーム	①トーク「手話と写真に生きる者として」(50名) ②トーク「ことばの起源へ」(51名) ③トーク「写真集『感動』が頭わにする世界の姿」(99名) ④トーク「詩の生まれるところ」&ワークショップ「幻聴妄想かるたー遊ぶ・語る・作る」(73名。うちワークショップ参加25名)

〈出張展示及び展示関連実施状況〉

ア 出張展示： 22回

展示先	実施期間	実施会場	実施内容
ホームレスワールドド カップサッカーに関 する国際会議	4月10日(火)から 4月11日(水)まで	日本サッカー 協会会議室	写真パネル
憲法週間行事「講演と 映画の集い in 清瀬」 (東京都人権啓発活 動ネットワーク協議 会行事)	5月11日(金)	清瀬けやきホ ール	「読む人権 じんけんのほん」、 著名人メッセージパネル、啓発ポ スター
就職差別解消促進月 間行事 人権啓発映 画会(台東区共催行 事)	6月25日(月)	台東区生涯学 習センター ミレニアムホ ール	「読む人権 じんけんのほん」、 「TOKYO 人権」バックナンバー
学校内人権啓発行事	7月9日(月)から 7月14日(土)まで	多摩市立落合 中学校 図書室	平沢保治氏(国立療養所多磨全生 園)及び塔和子氏(詩人・国立療養 所大島青松園)の写真、作品(詩)、 書籍等
企業内人権啓発行事	8月1日(水)から 8月3日(金)まで	丸の内MY PLAZA アトリウム	ボッチャ競技用具一式、競技用車 椅子、解説パネル、ボッチャ体験
学校内人権啓発行事	9月4日(火)	江戸川区立南 小岩第二小学 校 体育館	ボッチャ競技用具一式、ボッチャ 体験
プラザ神明フェステ ィバル	9月8日(土)	港区立プラザ 神明6階 多 目的室	ボッチャ競技用具一式、解説パネ ル、関連書籍、ボッチャ体験
子どもたちからの人 権メッセージ発表会 (多摩東人権啓発活 動地域ネットワーク 協議会主催行事)	9月8日(土)	府中の森芸術 劇場 ふるさ とホール	「読む人権 じんけんのほん」、 著名人メッセージパネル、啓発ポ スター
きねがわスタンプラ リー2018	10月14日(日)	墨田区社会福 祉会館	「よみがえった黒べえ」パネル、 皮革工芸体験(犬のキーホルダー 作り)
全生園まつり	11月1日(木)から 11月3日(土)まで	国立療養所多 磨全生園コミ ュニティセン ター	「読む人権 じんけんのほん」、 メッセージパネル、啓発ポスター
ヒューマンライツ・フ ェスタ東京2018	11月6日(火)	新宿駅西口広 場 イベント コーナー	ボッチャ体験
立川市人権週間パネ ル展	11月22日(木)から 12月2日(日)まで	立川市役所1 階 多目的プ ラザ	障害者スポーツに関する解説パ ネル、ボッチャコート、関連書籍
企業内人権啓発行事	12月4日(火)から 12月5日(水)まで	山崎製パン株 式会社本社5 階会議室	障害者スポーツに関する解説パ ネル、ボッチャ他競技用具一式、 車椅子、関連書籍

人権週間行事「講演と映画の集い in 足立」 (東京都人権啓発活動ネットワーク協議会行事)	12月7日(金)	足立区役所庁舎ホール	「読む人権 じんけんのほん」、 展示パネル、啓発ポスター
墨田区社会福祉会館 人権週間講演会	12月8日(土)	墨田区社会福祉会館	「読む人権 じんけんのほん」、 啓発ポスター
ヒューマンライツ・フェスタ東京2018	12月8日(土)から 12月9日(日)まで	東京国際フォーラム ロビー ギャラリー	クラフト教室「犬のキーホルダー 製作体験」
人権週間行事「多摩市 人権のつどい」	12月10日(月)から 12月16日(日)まで	多摩市関戸公民館 市民 ギャラリー	講演者である入江杏氏(世田谷事 件遺族)の紹介展示
台東区「2018 人権の つどい」	12月18日(火)	台東区立浅草 公会堂	「読む人権 じんけんのほん」、 人権啓発ポスターパネル
多摩東人権啓発活動 地域ネットワーク協 議会事業「講演と映画 の集い」	1月26日(土)	三鷹市芸術文 化センター 星のホール	「読む人権 じんけんのほん」、 著名人メッセージパネル
人権施策推進都区連 絡会	2月5日(火)	台東区民会館 第四会議室	「よみがえった黒べえ」パネル、 同和問題に関するパネル、書籍
芝地区元気フェスタ	2月23日(土)	三田いきいき プラザ	障害者スポーツ競技用具一式(ブ ラインドサッカーボール、ゴール ボール、ボッチャ等)、展示パネ ル、関連書籍
港区立高輪図書館人 権啓発行事	3月16日(土)	港区立高輪子 ども中高生プ ラザ	ボッチャボール一式、展示パネ ル、関連書籍

イ パネル等貸出： 11回

展示先	実施期間	実施会場	実施内容
学校内人権啓発行事	9月5日(水)から 9月14日(金)まで	中央区立中央小 学校	ボッチャ競技用具一式、障害者 スポーツ関連書籍、点字図書
学校内文化祭	9月19日(水)から 9月28日(金)まで	貞 静 学 園 中 学 校・高等学校	ボッチャ競技用具一式、ブライ ンドサッカー競技用具一式、解 説パネル
学校内人権啓発授業	9月28日(金)から 10月10日(水)まで	あきるの市立南 秋留小学校	ボッチャ競技用具一式、解説パ ネル、障害者スポーツ関連書籍
調布市公民館人権 啓発展示	①10月5日(金)から 10月21日(日)まで ②11月8日(木)から 11月25日(日)まで ③11月28日(水)から	①調布市東部公 民館 ②調布市北部公 民館 ③調布市西部公	「読む人権 じんけんのほ ん」、著名人メッセージパネル、 啓発ポスター

	12月9日(日)まで	民館	
学校内「高齢者と人権」に関する授業	10月15日(月)から 11月9日(金)まで	板橋区立常盤台 小学校	高齢者擬似体験キット
東京ウィメンズプラ ザ人権啓発行事	10月27日(土)から 10月28日(日)まで	東京ウィメンズ プラザ	展示パネル
東京法務局「人権 指導者研修」	11月1日(木)から 11月6日(火)まで	法務省東京法務 局	ボッチャ競技用具一式
板橋区役所人権啓発 行事(いろいろなり ボンーアウェアネス リボンって何だろ う?)	11月21日(水)から 11月30日(金)まで	板橋区役所	展示パネル
調布市福祉まつり	12月2日(日)	調布市総合福祉 センター	著名人メッセージパネル、書 籍、啓発ポスター
企業内人権啓発行事	12月5日(水)	株式会社不二家	ユニバーサルデザイングッズ、 高齢者擬似体験キット、妊婦疑 似体験キット、ボッチャボー ル、展示パネル
港区立高輪子ども 中高生プラザ人権 啓発行事	2月20日(水)	港区立高輪子ど も中高生プラザ	ボッチャ競技用具一式、展示パ ネル

6 その他の事業 (定款第4条第7号)

・賛助会員制度

企業等とのパートナーシップの確立及び自主財源の確保により人権啓発諸事業の充実を図るため、賛助会員(団体、個人)を募った。

団体会員： 33団体 33口 990千円
 個人会員： 52名 75口 150千円
 合 計： 108口 1,140千円

7 決算

貸借対照表

平成31年 3月31日現在

公益財団法人東京都人権啓発センター

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金 預 金	117,382,224	128,692,815	-11,310,591
未 収 金	839,300	265,026	574,274
前 払 金	176,704	72,000	104,704
棚 卸 資 産	487,041	684,012	-196,971
貯 蔵 品	26,418	27,560	-1,142
流動資産合計	118,911,687	129,741,413	-10,829,726
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定 期 預 金	36,000,000	36,000,000	0
普 通 預 金 (都 債 用)	0	0	0
投 資 有 価 証 券	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	136,000,000	136,000,000	0
(2) 特定資産			
人 権 啓 発 資 料 製 作 積 立 資 産	17,000,000	16,000,000	1,000,000
運 用 準 備 資 金	29,995,769	14,995,769	15,000,000
特定資産合計	46,995,769	30,995,769	16,000,000
(3) その他固定資産			
什 器 備 品	196,412	211,608	-15,196
リ ー ス 資 産	4,535,974	6,173,151	-1,637,177
その他固定資産合計	4,732,386	6,384,759	-1,652,373
固定資産合計	187,728,155	173,380,528	14,347,627
資産合計	306,639,842	303,121,941	3,517,901
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	13,218,099	18,467,443	-5,249,344
前 受 金	2,000	4,000	-2,000
短 期 リ ー ス 債 務	1,663,155	1,637,177	25,978
預 り 金	1,263,578	1,633,449	-369,871
賞 与 引 当 金	652,735	493,134	159,601
未 払 法 人 税 等	1,854,900	3,262,300	-1,407,400
未 払 消 費 税 等	1,339,400	2,327,600	-988,200
流動負債合計	19,993,867	27,825,103	-7,831,236
2. 固定負債			
長 期 リ ー ス 債 務	2,872,819	4,535,974	-1,663,155
固定負債合計	2,872,819	4,535,974	-1,663,155
負債合計	22,866,686	32,361,077	-9,494,391
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	101,000,000	101,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(101,000,000)	(101,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(35,000,000)	(35,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(46,995,769)	(30,995,769)	(16,000,000)
正味財産合計	283,773,156	270,760,864	13,012,292
負債及び正味財産合計	306,639,842	303,121,941	3,517,901

貸借対照表内訳表

平成31年 3月31日現在

公益財団法人東京都人権啓発センター

(単位:円)

科 目	公 益	収 益	法 人	内部取引消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	23,466,066	4,056,179	89,859,979		117,382,224
未収金	839,300	0	0		839,300
前払金	76,770	0	99,934		176,704
棚卸資産	487,041	0	0		487,041
貯蔵品	0	0	26,418		26,418
流動資産合計	24,869,177	4,056,179	89,986,331	0	118,911,687
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
定期預金	0	0	36,000,000		36,000,000
普通預金(都債用)	0	0	0		0
投資有価証券	0	0	100,000,000		100,000,000
基本財産合計	0	0	136,000,000	0	136,000,000
(2) 特定資産					
人権啓発資料製作積立資産	17,000,000	0	0		17,000,000
運用準備資金	15,000,000	0	14,995,769		29,995,769
特定資産合計	32,000,000	0	14,995,769	0	46,995,769
(3) その他固定資産					
什器備品	0	2	196,410		196,412
リース資産	1,916,313	1,467,010	1,152,651		4,535,974
その他固定資産合計	1,916,313	1,467,012	1,349,061	0	4,732,386
固定資産合計	33,916,313	1,467,012	152,344,830	0	187,728,155
資産合計	58,785,490	5,523,191	242,331,161	0	306,639,842
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	8,744,787	1,918,876	2,554,436		13,218,099
前受金	2,000	0	0		2,000
短期リース債務	690,225	544,841	428,089		1,663,155
預り金	533,645	0	729,933		1,263,578
賞与引当金	146,000	0	506,735		652,735
未払法人税等	0	1,784,900	70,000		1,854,900
未払消費税等	987,352	352,048	0		1,339,400
流動負債合計	11,104,009	4,600,665	4,289,193	0	19,993,867
2. 固定負債					
長期リース債務	1,226,088	922,169	724,562		2,872,819
固定負債合計	1,226,088	922,169	724,562	0	2,872,819
負債合計	12,330,097	5,522,834	5,013,755	0	22,866,686
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
指定正味財産合計	0	0	101,000,000	0	101,000,000
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(101,000,000)		(101,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)		(0)
2. 一般正味財産	46,455,393	357	136,317,406	0	182,773,156
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(35,000,000)		(35,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(32,000,000)	(0)	(14,995,769)		(46,995,769)
正味財産合計	46,455,393	357	237,317,406	0	283,773,156
負債及び正味財産合計	58,785,490	5,523,191	242,331,161	0	306,639,842

正味財産増減計算書

平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日まで

公益財団法人東京都人権啓発センター

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	741,616	1,959,600	-1,217,984
基本財産受取利息	741,616	1,954,600	-1,212,984
有価証券運用益	0	5,000	-5,000
特定資産運用益	2,950	2,850	100
特定資産受取利息	2,950	2,850	100
受取取会費	1,140,000	1,168,000	-28,000
賛助会員受取会費	1,140,000	1,168,000	-28,000
事業収益	16,190,726	13,459,708	2,731,018
普及啓発事業収益	1,196,600	1,080,500	116,100
講演・講座事業収益	0	0	0
研修事業収益	14,994,126	12,379,208	2,614,918
受取補助金等	89,604,765	84,193,725	5,411,040
受取東京都補助金	89,604,765	84,193,725	5,411,040
受取人権プラザ事業収益	102,373,528	144,890,128	-42,516,600
公益目的事業収益	68,685,528	68,457,128	228,400
施設管理運営事業収益	33,688,000	76,433,000	-42,745,000
雑収益	0	237,960	-237,960
雑収益	0	237,960	-237,960
経常収益計	210,053,585	245,911,971	-35,858,386
(2) 経常費用			
事業費	178,619,294	216,402,592	-37,783,298
役員報酬	9,636,025	9,546,174	89,851
給与手当	60,449,149	73,168,971	-12,719,822
賞与引当金繰入	652,735	0	652,735
福利厚生費	12,000,329	12,596,281	-595,952
支払手数料	82,126	106,746	-24,620
会議費	21,701	12,789	8,912
職員研修費	428,894	239,656	189,238
旅費交通費	659,223	984,552	-325,329
通信運搬費	3,024,281	2,725,878	298,403
消耗品費	9,828,767	9,170,542	658,225
図書購入費	3,765,519	4,063,133	-297,614
印刷製本費	2,448,890	1,925,439	523,451
光熱水費	912,040	5,742,940	-4,830,900
賃貸借料	3,089,750	3,860,624	-770,874
委託料	48,051,294	70,017,089	-21,965,795
諸謝金	18,287,242	15,715,564	2,571,678
修繕費	83,160	587,088	-503,928
租税公課	3,505,900	4,327,500	-821,600
雑費	103,805	47,782	56,023
減価償却費	1,588,464	1,563,844	24,620

科 目	当年度	前年度	増 減
管 理 費	16,567,099	15,826,248	740,851
役 員 報 酬	4,286,669	4,330,686	-44,017
給 与 手 当	5,354,723	5,251,577	103,146
賞 与 引 当 金 繰 入	0	493,134	-493,134
福 利 厚 生 費	1,855,655	1,754,393	101,262
支 払 手 数 料	1,517,147	897,263	619,884
会 議 費	29,264	25,654	3,610
職 員 研 修 費	18,026	12,904	5,122
旅 費 交 通 費	129,136	98,909	30,227
交 際 費	35,000	54,838	-19,838
通 信 運 搬 費	82,857	88,147	-5,290
消 耗 品 費	236,118	206,036	30,082
図 書 購 入 費	360,906	356,759	4,147
印 刷 製 本 費	631,520	421,254	210,266
光 熱 水 費	119,679	131,311	-11,632
賃 借 料	882	0	882
委 託 料	1,706,508	1,498,351	208,157
租 税 公 課	2,100	5,050	-2,950
雑 費	137,000	137,000	0
減 価 償 却 費	63,909	62,982	927
経常費用計	195,186,393	232,228,840	-37,042,447
評価損益等調整前当期経常増減額	14,867,192	13,683,131	1,184,061
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	14,867,192	13,683,131	1,184,061
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	0	12	-12
経常外費用計	0	12	-12
当期経常外増減額	0	-12	12
他会計振替額	0	0	0
法人税等	1,854,900	3,262,300	-1,407,400
当期一般正味財産増減額	13,012,292	10,420,819	2,591,473
一般正味財産期首残高	169,760,864	159,340,045	10,420,819
一般正味財産期末残高	182,773,156	169,760,864	13,012,292
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	741,616	1,959,600	-1,217,984
基本財産受取利息	741,616	1,954,600	-1,212,984
有価証券運用益	0	5,000	-5,000
特定資産運用益	2,950	2,850	100
一般正味財産への振替額	-744,566	-1,962,450	1,217,884
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	101,000,000	101,000,000	0
指定正味財産期末残高	101,000,000	101,000,000	0
III 正味財産期末残高	283,773,156	270,760,864	13,012,292

正味財産増減計算書内訳表

平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日まで

公益財団法人東京都人権啓発センター

(単位:円)

科 目	公 益	収 益	法 人	内部取引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	0	0	741,616		741,616
基本財産受取利息	0	0	741,616		741,616
有価証券運用益	0	0	0		0
特定資産運用益	1,600	0	1,350		2,950
特定資産受取利息	1,600	0	1,350		2,950
受取会費	1,140,000	0	0		1,140,000
賛助会員受取会費	1,140,000	0	0		1,140,000
事業収益	16,190,726	0	0		16,190,726
普及啓発事業収益	1,196,600	0	0		1,196,600
講演・講座事業収益	0	0	0		0
研修事業収益	14,994,126	0	0		14,994,126
受取補助金等	71,289,793	5,171,845	13,143,127		89,604,765
受取東京都補助金	71,289,793	5,171,845	13,143,127		89,604,765
受取人権プラザ事業収益	68,685,528	33,688,000	0		102,373,528
公益目的事業収益	68,685,528	0	0		68,685,528
施設管理運営事業収益	0	33,688,000	0		33,688,000
雑収益	0	0	0		0
雑収益	0	0	0		0
経常収益計	157,307,647	38,859,845	13,886,093	0	210,053,585
(2) 経常費用					
事業費	155,019,312	23,599,982	0		178,619,294
役員報酬	8,565,357	1,070,668	0		9,636,025
給与手当	46,805,187	13,643,962	0		60,449,149
賞与引当金繰入	652,735	0	0		652,735
福利厚生費	9,835,801	2,164,528	0		12,000,329
支払手数料	44,075	38,051	0		82,126
会議費	21,701	0	0		21,701
職員研修費	404,030	24,864	0		428,894
旅費交通費	634,790	24,433	0		659,223
通信運搬費	2,868,835	155,446	0		3,024,281
消耗品費	7,594,496	2,234,271	0		9,828,767
図書購入費	3,765,519	0	0		3,765,519
印刷製本費	1,719,242	729,648	0		2,448,890
光熱水費	746,965	165,075	0		912,040
賃借料	2,230,342	859,408	0		3,089,750
委託料	47,233,734	817,560	0		48,051,294
諸謝金	18,287,242	0	0		18,287,242
修繕費	0	83,160	0		83,160
租税公課	2,518,652	987,248	0		3,505,900
雑費	103,805	0	0		103,805
減価償却費	986,804	601,660	0		1,588,464

科 目	公 益	収 益	法 人	内部取引消去	合 計
管理費	0	0	16,567,099		16,567,099
役員報酬	0	0	4,286,669		4,286,669
給与手当	0	0	5,354,723		5,354,723
賞与引当金繰入	0	0	0		0
福利厚生費	0	0	1,855,655		1,855,655
支払手数料	0	0	1,517,147		1,517,147
会議費	0	0	29,264		29,264
職員研修費	0	0	18,026		18,026
旅費交通費	0	0	129,136		129,136
交際費	0	0	35,000		35,000
通信運搬費	0	0	82,857		82,857
消耗品費	0	0	236,118		236,118
図書購入費	0	0	360,906		360,906
印刷製本費	0	0	631,520		631,520
光熱水費	0	0	119,679		119,679
賃借料	0	0	882		882
委託料	0	0	1,706,508		1,706,508
租税公課	0	0	2,100		2,100
雑費	0	0	137,000		137,000
減価償却費	0	0	63,909		63,909
經常費用計	155,019,312	23,599,982	16,567,099	0	195,186,393
評価損益等調整前当期經常増減額	2,288,335	15,259,863	-2,681,006	0	14,867,192
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期經常増減額	2,288,335	15,259,863	-2,681,006	0	14,867,192
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
固定資産除却損	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	6,535,472	-15,035,472	8,500,000	0	0
法人税等	0	1,784,900	70,000	0	1,854,900
当期一般正味財産増減額	8,823,807	-1,560,509	5,748,994	0	13,012,292
一般正味財産期首残高	37,631,586	1,560,866	130,568,412	0	169,760,864
一般正味財産期末残高	46,455,393	357	136,317,406	0	182,773,156
II 指定正味財産増減の部					
基本財産運用益	0	0	741,616		741,616
基本財産受取利息	0	0	741,616		741,616
有価証券運用益	0	0	0		0
特定資産運用益	1,600	0	1,350		2,950
一般正味財産への振替額	-1,600	0	-742,966		-744,566
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	101,000,000	0	101,000,000
指定正味財産期末残高	0	0	101,000,000	0	101,000,000
III 正味財産期末残高	46,455,393	357	237,317,406	0	283,773,156

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
先入先出法による原価基準によっている。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法
満期保有目的の債券については、償却原価法によっている。
- (3) 固定資産の減価償却
有形固定資産（リース資産を除く）は定額法によっている。
ソフトウェアは定額法によっている。
リース資産はリース期間を耐用年数とし、残存価額を零とするリース資産定額法によっている。
- (4) 引当金の計上基準
賞与引当金は職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	36,000,000	—	—	36,000,000
投資有価証券	100,000,000	—	—	100,000,000
小 計	136,000,000	0	0	136,000,000
特定資産				
人権啓発資料製作積立資産	16,000,000	1,000,000	—	17,000,000
運用準備資金（公益目的）	0	15,000,000	—	15,000,000
運用準備資金（法人）	14,995,769	—	—	14,995,769
小 計	30,995,769	16,000,000	0	46,995,769
合 計	166,995,769	16,000,000	0	182,995,769

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充当 額)	(うち一般正味 財産からの充当 額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	36,000,000	(1,000,000)	(35,000,000)	—
普通預金	0	(0)	—	—
投資有価証券	100,000,000	(100,000,000)	—	—
小 計	136,000,000	(101,000,000)	(35,000,000)	—
特定資産				
人権啓発資料製作積立資産	17,000,000	—	(17,000,000)	—
運用準備資金(公益目的)	15,000,000	—	(15,000,000)	—
運用準備資金(法人)	14,995,769	—	(14,995,769)	—
小 計	46,995,769	—	(46,995,769)	—
合 計	182,995,769	(101,000,000)	(81,995,769)	—

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	2,901,319	2,704,907	196,412
リース資産	8,269,776	3,733,802	4,535,974

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末 残 高	当期増加額	当期減少額	当期末 残 高	貸借対照表上 の記載区分
補助金						
運営費補助金	東京都	0	89,604,765	89,604,765	0	
合 計		0	89,604,765	89,604,765	0	

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産運用益による振替額	741,616
特定資産運用益による振替額	2,950
合 計	744,566

